

目的 八溝山系に属する栃木県那須郡足町は、タバコ栽培を主とする兼業農家が99%で、その収穫期における栄養ならびに食生活の栄養状態を知るために、今回の調査を行なった。

方法 昭和53年7月24日から27日にかけて同町Y. M. 2地区9ブロックに居住する110世帯、20才以上の男子121名、女子147名について栄養調査を実施した。連続3日間の摂取食品を目分量で記入してもらい、これより栄養価計算を行った。また、各戸より味噌・味噌汁をもらい、そのNa量を島津原子吸光光度計で測定した。

結果 (1)対象地区の平均摂取栄養量を昭和52年度国民栄養調査農家世帯の成績と比較すると、対象地区の方が動脈と脂質の摂取量が少く、Ca、VA、VBは不足していた。栄養所要量との比較では、男女とも動脈、鉄、VCを少く摂取し、Ca、VA、VBが不足していた。(2)年令別では、40・50才代の摂取栄養量が少く、特に魚介類、淡色野菜類、漬物類、菓子類が少く摂られ、若い世代では肉類、牛乳、果実類、油脂類が少かった。(3)農家世帯と非農家世帯では、前者の方がエネルギー、糖質、VCが少く、統計的に差があった。(4)専業農家世帯と兼業農家世帯では、前者の方がCa、Fe、VB₂、VCの摂取が少く、統計的に差があった。(5)タバコ栽培農家世帯とその他の農家世帯では、前者の方が全体的に摂取量が少くエネルギー、糖質、VB₂、VB₆、VCにおいて有意の差があった。(6)生活時間は、農繁期であるタバコ栽培農家の方が労働時間が長く、睡眠・余暇時間が短かった。(7)9ブロック間においては、県道沿いのA・Dの栄養・群別摂取量とも少く、また、Eと統計的な差があった。(8)各戸から集めた味噌・味噌汁のNa量(食塩量に換算)は、一般より高濃度傾向がみられた。